

平成 30 年 2 月 17 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 30 年度 第 2 回

今朝の一面から

今朝の読売新聞一面のトップは、「脱デフレ緩和継続 日銀 黒田総裁再任へ」という見出しです。見た瞬間に思ったのは、安倍さんは何が何でも自分の続投を計っているということです。後ろを見ていくと、「再任・黒田氏 難題待つ」とか「もろ刃のバズーカ」「低金利 金融機関を圧迫」・・・と、黒田総裁の事ばかり書いてあります。黒田さんの首を斬ればアベノミクスは失敗だと証明するようなものだから、当然、安倍さんの首も危なくなります。ですから、死に物狂いで総理大臣を続行して憲法改正までもっていきたい！ という安倍さんの意志が透けて見えます。

同じ一面の隣の記事は、平昌オリンピック「羽生 SP 首位」とあります。まだ金メダルを獲ったわけではありませんから、メダルを獲ったら一面全部を塗りつぶしてしまうのでしょうか。

眺めていて面白いと感じたのは、大衆に受け入れられる新聞の紙面作りは、政府におもねっている記事が一つと、中国におもねっている記事が一つ、という掲載の仕方です。なぜ羽生選手の記事が中国におもねっているかということ、平昌オリンピックは北朝鮮のアピールの場です。その北朝鮮を支援しているのは中国です。中国はシルクロードの現代版を押し進めているから、中国がナンバーワンになるための手駒として北朝鮮を潰すわけにはいかないし、韓国も手駒で置いておきたい。そういう中国の思惑は、常に記事にしておかなければいけないのでしょうか。

ですから今朝の読売新聞一面は、安倍さんは続投したくて涎が垂れている記事が半分、もう半分は中国がナンバーワンになるための布石として書いていると読めます。

そして、これだけでは新聞社は儲かりませんから、下の部分に広告がずらっと出ています。見ると、読みたい本がありましたので丸を付けました。これは情報（横の知識）です。最近私は新聞を見て、読みたい本があると丸をつけて買って読んでいます。新聞で見たいと思う本、本屋さんに行って読みたいと思う本、それから講演会や人から紹介された本・・・こういうきっかけで興味を持った本があればすぐに買って読むようにしています。

いずれにしても新聞の書き方を見て、渡辺恒雄（ナベツネ）さんの影響を感じますね。ナベツネさんが亡くなると新聞が変わります。もちろん読売新聞だけではありません。ナベツネさんが安倍さんの意向を受けて日本の新聞業界全体を牛耳っていますから、新聞の思惑から論調から皆、同じになる。それだけ影響力が強いわけです。新聞業界が変わるのは、記者クラブが無くなることとナベツネさんが亡くなることだと思っています。

ということで新聞を見ると、この新聞が出来ている背景は何なのか、この新聞社はどういうことをして稼いでいるのか、誰の言うことを聞いているのか（聞かざるを得ないのか）…等々が透けて見えます。

他に気になった記事を申します。

・配偶者 自宅居住可能に

法制審議会が「配偶者居住権」創設等の民法改正の要綱を決定し答申したという記事。御主人が亡くなって、残された奥さんが今の住居に住み続けたいというのであれば法律も後押しをしますということです。これは安倍さんが何とか続投したいから、国民に対する飴と鞭政策の「飴」ですね。

もう一つ、これはと思った記事をご紹介します。

読売新聞の連載「時代の証言者」で、村木厚子さんがシリーズで取り上げられています。村木厚子さんはご存知の通り、郵便不正事件の冤罪で捕まって、後に厚労省の次官になりました。村木さんが捕まって地検の取り調べを受けた時の状況が書かれた記事を読みましたが、身に覚えのない内容の取り調べに耐え続けた村木さんは、最終日、毎日つけていたノートに「よくがんばった！自分を誉めてやろう」と書いたそうです。証明書の偽造をした部下に対して、あれだけ検察に責められたら嘘の調書を認めてしまったのも理解できると語っていました。実際、村木さんが幾ら説明しても取り調べの議事録には一切採用されず、検察が描いたストーリー以外の内容は全部カットされていたそうです。事件後、村木さんは取り調べの可視化を訴えて、法改正が進んでいったわけです。

今日の連載は「子連れ赴任、善意に囲まれ」というタイトルで、村木さんが島根県の労働基準局に監督課長で赴任をした際、子連れで赴任をした時の話が書かれています。面白いと思ったのは、村木さんは飲み会にも娘さんを連れて出ているので、「娘はビアガーデンがママの会社だと思っていたほど」だったそうで、「飲み会の翌朝、スーツ姿のまま畳

で寝ていたこともあったが、娘はちゃんと布団で寝ているのを見て、ちゃんと母親もやっているじゃない私、と大いに安心した」と書いています。

このように自分の文章で書いている記事を見ると、ホッとしますね。また、検察制度に対する疑問について取り調べの体験談で書かれているので、こういう記事は良いと思いました。新聞記者の目を通して書いたものは役に立たない。記者の眼を通すと、ふるいにかげられて欲しい情報が消えています。本人の体験談のようなものから、本質が透けて見えて来ます。

翻って、選挙の際に裁判官の国民審査がありますが、おかしい話だと思います。情報もないままで、なぜ判断ができるのでしょうか。ならば、国民が注目する大きな事件の裁判などは、裁判の要旨や裁判官の名前を掲載すべきだと思います。そうすると命を賭して判決をしているか、軽く判決をしているかが分かります。一貫した裁判官の記録のようなものが新聞に掲載されて欲しいと思っています。

論語の視点

先月から話の順番を変えています。代表幹事からの要望で、論語の解説を先に致します。本日の論語は衛霊公篇 37～39 です。

【三七】子 曰く、君に事うるには、其の事を敬して、其の食を後にす。

孔子が言うには、主君に仕えるには、自分の仕事を一所懸命やって、俸給は後にしなさい。

「君に事うる」とは就職、孔子の時代ですと仕官することです。孔子の元に集まって来た就活希望の青年たちは、良い仕官先を得たいと思っているわけです。

以前、郵政選挙で棚ぼた当選をした自民党の若手議員がインタビューで、「料亭に行きたい」などと発言して幹事長に怒られました。衆議院議員になったのなら一所懸命その仕事に打ち込んで、料亭に行くなどはきちんと仕事を全うしてからにしてくださいということです。

俸給が先か、仕事が先か……。とにかく仕事をさせて下さい！ その結果で給料を決めてくれ！ という社員は、川村代表幹事の会社であれば先代の頃にはいたと思います。今の新入社員は、給料は幾らか、待遇はどうか優先でしょう。こういう仕事をしてみたいと思って入社する人は、とても少ないと感じます。

先ほどの村木さんの記事にも、赴任先の労働基準局で高校生・大学生の意識調査をしたところ、「週休2日ではないが給料が高い会社」と「週休2日だが給料が安い会社」のどちらがいいかという質問に対して、「休みが多い方が魅力的な会社であることがわかった」とあります。ですから時代はもう、完全にそちらに移っているのです。

こういう仕事をしたい！ 収入も欲しいけれど先ず仕事が先だ！ と、新入社員が惚れ込めるような仕事を提供できる会社が作れると良いなと思います。そうすると、給料なんて関係ない！ 週休2日なんてクソくらえ！ となりますよ。まさに孔子の時代そのままです。本当にそういう会社を創りたいものだなあ…と、この文章が私をそそのかしました。

【三八】 し いわ 子曰く、 おしえあ 教有りて るいな 類無し。

教えとは教育です。類とは差別です。

孔子が言うには、教育をするのに身分とか善し悪し、利口か馬鹿か、で差別はしない。全部平等である。

日本の陽明学の祖、中江藤樹には大勢のお弟子さんがいました。その中に、親も周りも認める愚鈍な弟子がいました。小学生レベルのその弟子から、医者になりたいから医学書の読み方を教えて欲しいと頼み込まれた中江藤樹は、医学書を読み込んで、弟子が理解できるように平易な教科書を作り、自分の寝る時間を削って一対一で懸命に教え込んで、とうとう一人前の医者に育て上げました。この論語のように、相手の能力によって差別はしない、それどころか相手の能力にあわせて、相手の目線で教育をしたわけです。

ここで肝心なのは、藤樹先生は弟子を怒りませんでした。これは大変なことです。私にはグサツときます。私は、今はまだ実業の部分と教育の部分がダブっていますが、最終的には教育の道にいくと決めています。実業界にいる時には、社員にやる気が見えない時など、かなりきつく怒鳴ったりしました。しかし途中でパフォーマンスに切り替えて、今はそれもしなくなりました。怒るというのは頭ごなしにぶつける行為で、叱るというのは相手のためを思ってやるわけです。しかし受ける側は、怒られているのか叱られているのか分からないのです。私も若干教え方を勉強しましたから、今は相手の目線に立って、相手になるほどと納得して自分でやりたいと思わせるような話の仕方、教育の仕方を身に付けたいと思って工夫しています。

相手にあわせて、知りたい・やりたい・覚えたいという気持ちを誘い出し、それを尊重しながらやっていく。それが教育です。教える側は自分でやってみて、実感して、出来てから教えることです。ですから指導する側はとても大変です。

【三九】^{し いわ}子 曰く、^{みちおな}道同じからざれば、^{あいため はか}相為に謀らず。

孔子が言うには、志が同じでなければ、互いに相談して助け合うことはできない。

渋澤栄一さんの解説では、それぞれ商売によってやり方が違うから「酒屋は酒屋、餅屋は餅屋」だと言っています。また、「法華と浄土、題目と念仏も融合できない」とも言っています。宗教戦争は神様の名のもとに殺し合いをするわけですから、同じ宗教というくくりであっても、道が違えば一緒にはならないということです。

政党も同じです。野合とか烏合と言いますが、我が世の春でやってきた自民党が政権から落ち、這い上がるために社会党と手を握った。政治家とはいったい何なのかと思います。自民党と公明党は与党ですが基本的な考え方は同じではありません。ですからどこかでぼろが出るはずですが、よく擦り合わせていると思います。小沢一郎さんに到っては、反自民でかき集めて細川内閣を作ったのですから、大したものだと思います。

「道同じからざれば」で、政権をとりたいたいという道が同じだと、社会党だろうが共産党だろうが皆、ごちゃまぜで一緒になっていくのではないかと思いました。ただ、日本の政治家や経済人、教育者はてんでんばらばらですが、「日本のために」「日本人のために」「子供達のために」という志が一緒であれば、大同団結して進んでゆくのが良いと考えます。

時事評論

時事評論の続きを申します。

・公務員の定年 65 歳に 政府、人事院に検討要請 (2/17 読売新聞)

「働けど働けど猶わが生活楽にならざり ぢっと手を見る」という歌もありますが、少子高齢化ですから、公務員が 65 歳まで働いて、民間がもっともっと働いて・・・と、国民はどんどん働け！ ということでしょう。しかしながら、高齢者が働こうと思っても、なかなか働く場所がありません。何とか見つけて働き出すと、年金と給与をあわせて 64 歳以下は 28 万円、65 歳以上は 46 万円を超えると年金がカットされてしまいます。

この記事から、日本は一所懸命働いて沢山給料を貰うと年金がカットされる国だ、ということが分かります。それから、もともと公務員は年金がとても優遇されていますから、そういうことも透けて見えると、専門の方はもう少し詳しい見方が出て来ますね。

この記事を見て横の知識としてぱっと浮かんだのは、今、高齢者の独り暮らしが増えていきます。600万人弱といわれています。そのうち生活保護受給者は約70万人。その人達は月13万円前後の生活保護費を貰って、医療費は無料です。一方、年金だけで生活をしている人は200万人強います。その中で問題なのは国民年金だけしか貰っていない人です。国民年金は上限65,000円ですから、生活保護をはるかに下回っています。夫婦であれば二人分の金額が貰えますが、独りでは月に65,000円ですから、食べるものを切り詰めなければ生活できません。これは相当問題があると思います。

いずれにしても日本の国は、働け、働け！と言いながら制度がまだ追いついていませんから、たくさん働くと年金をカットされます。我々が学んでいる「ほどほど」で働けばよいということでしょう。

ということで、記事一つから横の知識が広がって、そこから縦の学問で、年金制度はどうやって始まったのだろうか？ 今の年金はどういう仕組みになっているか？ 他の国々と比べてどうなのか？・・・と掘り下げていく。そうすると本質が見えて来ます。

・米、有事の韓国退避に備え (2/17 読売新聞)

今、韓国には軍人以外の米国人が20万人以上、日本人6万人、中国人100万人が滞在しているので、万が一、韓国と北朝鮮でトラブルが発生した場合、その人達を避難させるための手を打っているという小さな囲み記事です。

新聞で大きく出す記事は、新聞が伝えたいこと。小さい記事は、どこかで言っておかなければいけないという言い訳の記事だと私は思っています。

前にも申しましたが、北朝鮮は韓国を吸収合併しようとしています。これは強い思いを持っている方が勝つわけです。喰ってしまいたいと思っている北朝鮮は「統一」と言っています。一方、韓国は「友好」ですから、話は見えています。そうなった場合、韓国にこれだけの非戦闘員がいるわけだから、さっさと避難させるための準備をアメリカはしていますというアピールです。日本もそういう準備をしていると、時々出しています。

ですから小さい記事も見た方がよろしいですね。小さい記事に、結構、これは！という真実が隠されています。

それから製薬会社の一面広告が目に入ってドキッとしました。「60代、なんとなく階段を避けていた。70代、軽々と階段を駆け上がる」とありますが、嘘つくなよと思いますね。しかし、こういう広告に心惹かれて購入する人は結構いるのでしょうか。ですから一面広告をうてるのだと思います。広告料金は相当な金額ですから、新聞社にとっては大事な収入源です。

私の体験談で申しますと、70代になる少し前は、椅子があれば椅子に座って、立ったまま壁に寄りかかって靴下をはいていました。69歳の誕生日に自転車を始めて、毎日乗ると決めてやりました。出張した時は、帰ってから2日分乗りました。1年間経ったら、壁に寄りかからずに軽々と靴下をはいていることに気が付きました。

この広告のように、薬を飲んだら階段を駆け上がるようになったという人もいるかもしれませんが、私がお勧めするのは、朝起きたら1時間ストレッチをすることです。私の場合ですと、片足で軽々と靴下をはけるようになるのに1年間自転車を乗り続けて、何とかなりました。お金を払って薬を飲むよりは、自分の身体を鍛えた方がより良いと思います。

本の扱い方

本日ご紹介する本は、中村天風先生の『哲人哲語』です。今までご紹介した天風先生の本は分かりやすい言葉でしたが、これは少し難しい言葉で書いてあります。

それから『老後破産―長寿という悪夢―』（新潮文庫）を持って来ました。先ほど、新聞の見方で横の知識と申しました。横の学問は、出来る限りリアルタイムで現実の数字を押さえて下さい。そうしないと空念仏になります。お伝えした「独り暮らしの高齢者が600万人弱、年金生活者が200万」という数字は、この本に出ていました。平成30年2月1日発行のNHKスペシャル取材班が書いた文庫本です。こういう類の本はリアルタイムで買って読みますから、せいぜい半年の命です。しかし骨格が見えますから、分析の材料になります。

それからもう一冊、ヤマト宅急便の親、小倉昌男さんが書いた『経営はロマンだ!』（日経ビジネス文庫）もご紹介します。ヤマト運輸に関する本は結構出ていますが、これは自分の体験談を書いているので読みました。

私はかなりの本を読んでいます、その扱いは三つのジャンルに分けられます。一つは、魂を磨く本です。人の道を教えてくれる、人格を向上させる本です。いわゆる哲学がベースですから、手もとに残しておきたい本です。

その次は、哲学にそって歩いた足跡が分かる本を読むとよろしいと思います。その人のものの考え方、どういう人生を歩んだかを丁寧に取材して書いてあったり、自分自身の体験談で書いているような本です。

あとは、半年から1年ぐらいで知識として覚えておけばよい、そういう類の本です。それから心が癒される本です。

私は、哲学がベースの本は残して、それ以外の本は人に差し上げて良い本だと思ってジャンル分けをしています。

足るを知る

中斎塾フォーラムの基本哲学は「知足（足るを知る）」です。困った時、苦しい時、悩んだ時、何でも全部これに当てはめて考えればよろしい。足るを知るとは、あまり無茶を言わずにほどほどで止めておきなさいということです。腹の中で、<ここまで>と思っても、口に出す時はほどほどにしておいた方がよろしいですね。時々自分自身を見直してみるとよいでしょう。

ここで中斎塾フォーラム恒例の質問を致します。今年に入って、ひと月半経ちました。

○ 今年に入って、良い日が続いている方

大分、手が挙がりました。結構なことです。

○ 今年に入って、嘘はほとんどついていない方

最初の頃は、嘘は絶対につかないという基準で聞いていましたが、それではハードルが高すぎますから、一つや二つはついては仕方がないと思うようになりました。車のハンドルもあそびが必要ですね。

○ 今年に入って、有難うと言いや有難うと言われることが多かった方

○ 今年に入って、健康法をよく実践している方

○ 昨晚寝る時に、今日一日良かったなと思って眠れた方

手を挙げた人で、明日一日良かったなと思って眠れるようになればたいしたものです。

○ 今年に入って、自分磨きをやっている方

自分磨きをしている方は、事上磨錬の人です。

師（本）を選ぶ

本日のテーマは「師」、師匠を選びましょうということです。佐藤一斎の言志録に「太上は天を師とし、其の次は人を師とし、其の次は経を師とす」とあります。天地自然を師とすれば金メダルのコース、素晴らしい人格を持った師匠を見つけられれば銀メダル、素晴

らしい書物に巡り合えれば銅メダル。どれか一つを選びなさいということです。

先ほど天風先生の本をご紹介しました。天風先生は縦の学問（哲学）ですから、是非お読み戴くとよろしい。安岡正篤先生は横の学問（知識）ですから、良いなと思う本を選べばよいでしょう。木内信胤先生は総合的直観力です。パッと閃いたものが皆、天地自然の理に合致しています。

ご紹介した本は出来ればメモして、良いと思ったものがあれば是非お読み下さい。それが自分自身を磨くことになります。自分自身が磨かれると、「足るを知る」が我がものになります。そうすると、すっきりして世の中が綺麗に見えます。その方の周りに人が集まって来るし、人さまを教え導いていく良い人間関係に繋がります。そして最終的に日本が良くなり、結果として世界も良くなる。という流れになりますので、どうぞ良い本を読まれるようお願いして、本日の講話を終了致します。